

はじめに

市民の皆様には、日ごろから市のまちづくりに対して深いご理解とご協力をいただき厚くお礼を申し上げます。

さて、本市の平成18年度予算については、「第1次京丹後市総合計画」や「行財政改革推進計画」に基づいた本格的なまちづくりをすすめるための予算編成となりました。市民の皆様との「協働と共創」の推進を掲げ、本市の真の活性化につながる具体策に向けて歩み始めようとしています。

本市の行財政や社会経済を取り巻く状況には、曙光の見える分野もある一方で、依然厳しいものがありますが、厳しい状況の中にこそ、発展や繁栄の芽が必ずあると思っています。こうした発展や繁栄の芽を市民の皆様それぞれのなかで大切に育てていただくうえでも、市がどんな取り組みをしているのかを市民の皆様にお知らせして、市民総監視の中で協働して市政を運営していくことが欠かせません。

そのため、これらを市民の皆様にお知らせするための情報提供のひとつとして、平成18年度の予算に計上した京丹後市の仕事をわかりやすく説明する「わかりやすいことしの予算」を昨年引き続き発行することとしました。

市の予算というのは市民生活に多大な影響を及ぼす行政サービスの大要を定めるものですが、そもそも市民の皆様のものであり、市は、予算の内容をわかりやすく説明する責任があります。そこでこの冊子では、法律で定める通常の予算書では伝わらない予算の具体的な内容を図表や写真を活用し、行政用語や専門用語をできるだけわかりやすい言葉で説明するように心がけました。

また、京丹後市の財政状況をグラフなどで示し、市の台所事情を少しでも理解していただけるようにしています。

ぜひ、この冊子を手に取り、皆様の税金がどのように使われているのかをお確かめください。

そして、疑問や市の課題を発見して議論する一助としたり、行政と市民の皆様が力をあわせて、よりよいまちづくりをすすめるきっかけとなれば幸いです。

平成18年4月

京丹後市長 中山 泰

平成18年度 京丹後市の基本目標と予算規模について

●基本目標

『ひと、みず、みどり 歴史と文化が織りなす交流のまち』という「京丹後市総合計画」の将来像を実現するため、3つの基本的な考え方（基本理念）と6つの基本方針に沿って、活力と魅力あるまちづくりを推進します。財政状況が厳しい中でも社会資本整備のための投資的事業の実施、産業振興、環境保全、安全都市へのまちづくりなど新しい"夢"のある取り組みを積極的に行います。

●3つの基本理念

- 豊かな自然や歴史・文化の恵みを活かし、世界に誇れるまちづくりをめざします
- ともに支え合い、安心して暮らせる健康・福祉のまちづくりをめざします
- ひとが育ち、夢がふくらみ、未来に飛躍するまちづくりをめざします

●6つの基本方針

- I ひと・もの・ことが行き交う 交流経済都市
- II 暮らしの中でいのちが輝く 環境循環都市
- III 生きる喜びを共有できる 健やか安心都市
- IV 次代を担う若い力が活躍できる 生涯学習都市
- V 共に築き、結び合う パートナーシップ都市
- VI 災害に強く、快適で暮らしやすい うるおい安全都市

●会計別予算規模

会 計 名	18年度	17年度	対前年比
一 般 会 計	284億5,000万円	289億8,000万円	△ 1.8%
国民健康保険事業特別会計	61億1,800万円	59億3,200万円	3.1%
国民健康保険直営診療所事業特別会計	4億3,800万円	4億4,300万円	△ 1.1%
老人保健事業特別会計	68億9,000万円	71億8,000万円	△ 4.0%
介護保険事業特別会計	42億7,200万円	39億6,500万円	7.7%
介護サービス事業特別会計	7億1,200万円	6億9,500万円	2.4%
簡易水道事業特別会計	17億3,000万円	11億2,000万円	54.5%
集落排水事業特別会計	4億4,000万円	3億6,600万円	20.2%
公共下水道事業特別会計	28億9,400万円	28億2,800万円	2.3%
浄化槽整備事業特別会計	5,900万円	5,640万円	4.6%
土地取得事業特別会計	200万円	200万円	0.0%
工業用地造成事業特別会計	3,410万円	3,420万円	△ 0.3%
宅地造成事業特別会計	9,180万円	9,250万円	△ 0.8%
峰山財産区特別会計	700万円	710万円	△ 1.4%
五箇財産区特別会計	260万円	260万円	0.0%
水道事業会計	15億8,527万円	9億5,369万円	66.2%
病院事業会計	59億3,698万円	67億9,558万円	△ 12.6%
総 計	596億6,275万円	594億5,307万円	0.4%

総額で2億968万円の増、増減率0.4%の増となっていますが、一般会計では5億3,000万円の減、増減率1.8%の減で「改革推進型」であるとともに、夢と実効のある先駆的な新規事業を数多く計上した「地域振興型」の予算とし、住民サービスに配慮しながらできる限りスリム化に努めた予算としています。全体として増加しているのは、簡易水道事業で丹後町の宇川・竹野簡易水道の統合事業の実施や、上水道事業で網野町域の水不足を解消するための広域給水事業を実施するなど大型事業に着手することが要因となっています。

一般会計とは 市税や地方交付税などを主な財源として、福祉や教育、道路や公園の整備など、さまざまな分野の仕事を行うための会計で、多くの事業やサービスは、この一般会計で行っています。

特別会計とは 国民健康保険や公共下水道のように、保険税や使用料などの特定の収入により特定の事業を行うため、一般会計と区分するために設けられている会計です。

公営企業会計とは 地方公営企業法の適用を受けて、地方公共団体が経営する水道や病院事業のように、その事業収入により経営を行うために設けられている会計です。